

## 祖母にもらった桜島小みかん

藤沢市立辻堂小学校

五年

花澤 璃乃

先日、鹿児島にいる祖母から桜島小みかんが送られてきた。私は、果物がとても大好きでみかんをもらってうれしかった。しかも、送られてきた桜島小みかんは私が想像していた大きさよりも小さくてかわいかった。桜島小みかんはふだん食べているみかんよりもジュシーで、何個でも食べられるくらいおいしかった。

私は、3年前に祖母に会いに鹿児島に行った。その時に桜島に遊びに行き、資料館や本で桜島について勉強したが、今回は特に桜島小みかんについて調べた。

桜島小みかんは、ギネスに認定された世界で一番小さいみかんで、樹齢二百年以上の大木としてさいばいされているものもあり、一本の木から数百キログラムの果実が収穫されることもある。桜島は土層と火山灰、軽石がバランス良く混ざっているため、水はけが良く果実が甘くなる。活火山である桜島の降灰の被害を防ぐとともに、適切な水分管理を行うため屋根かけハウスで作られるのが特徴。一般的には温室として利用するが、温暖な鹿児島ではハウスの上部だけをおおい、降灰対策をしている。農家は、灰が積もって日照不足にならないようハウスの管理が必要で、手間がかかる。

灰はじゃまな物だと、一見思いがちだが、灰があるからこそおいしい果物を作ることができるので、桜島小みかんは桜島のめぐみを受けたとても貴重な果物だと分かった。最近、農家の担い手が減少しているが、この貴重な桜島小みかんをずっと食べ続けていきたいので、屋根かけハウスの灰を自動で取り除いたり、小さくたくさんあるみかんを一度に収穫できるようにロボットが開発されれば良いなと思った。

これからも、大好きな果物を食べ続け、興味を持った果物について調べたいと思った。